

(金のエンジェル賞 幼児・小学生低学年の部)

わたしのサナギ

小二・荒木 結子

「あれ、わたしの青虫がいない」

かっていた青虫がカゴからいなくなっておどろいていると

「いるわよ、木を見てごらん。サナギになったのよ」

と、おかあさんが言った。

「サナギ？」

よく見ると、木に小さな細長いふくろがついてる。これがサナギなのか。わたしの青虫どうなっちゃうの。心ばいで図かんでしらべると、どうやらサナギは大人になる前の形らしい。よかった。びょう気じゃないんだ。せいちょうするにはすぐパワーがいるから、サナギになって力をためるようだ。どんなすがたになるのか、たのしみ。

学校から帰ったら、毎日サナギを見た。でも全ぜんうごかないし、見た目はかわらない。サナギって中で何してるのかな。へんしんするため、じつはすごいはやさで動き回ってるのかな。それとも一回バラバラになって、組み立てなおすのかな。大人ってどうやってなるのだろう。なぞは、ふかまるばかりだ。

今日は学校から帰っても、サナギを見なかった。学校でまたちゅういされて、そんな気分になれなかった。「もっと大きな声で、答えてごらん。もう二年生でしょ」先生はあんな風に言うけれど、みんなの前に立つとドキドキして、上手く話せない。人の気も知らない

---

で、本当にいやになっちゃう。わたしは自分のへやへかけこんだ。ふとベッドの上の、水玉のふとんに目をやった。赤ちゃんの時からいっしょの大切なふとん。

「サナギにへんしーん」

わたしはそう言うと、ふとんにくるまって丸くなった。気もちよくて、あたたかくて、安心する。いやな気もちもどこかへいってしまいい、そのままねむってしまった。

すっきり目をさますと、なぜか小さいころのことをたくさん思い出した。わたし、歩けるようになるのに、時間がかかったらしいね。今じゃ走るの大とくだけど。にんじんも食べられなかったな。今は大こうぶつ。わたし、けっこうせいちようしているじゃない。青虫も、サナギの中で今までのことを思い出して、大人になるじゅんびしているのかな。

つぎの日、学校へ行く前にサナギを見ると、きれいなチョウに大へんしんしていた。

「あ、口の先がうずまきになってる。やっぱりぐるぐる回ったんだ。それに、青いぶぶんもある。さては、サナギの中で青ざめるようなことがあったのね。やっぱり大人になるってたいへんなんだ」

わたしも今日は大きな声で、はっぴょうしてみようかな。

「へんしーん！」

そうさけぶと、わたしは家をとび出した。サナギっていいよね。わたしのサナギもさいこう。元気が出て、ちよっと大人になれるよ。

---

---

# わたしのサナギ



画：かとう まふみ

---